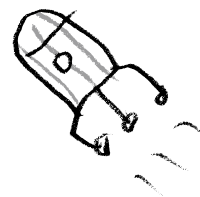


# 人が想像できることは、 必ず人が実現できる。

(ジュール・ヴェルヌ 1828～1905)



いまから約100年前、ひとりの小説家はその生涯を終えている。彼の作品に登場した空想のいくつかは当時の人びとにとって、あくまで実現不可能な絵空事として受け止められるようなものだった。私たちが生きる100年後のいま、彼の空想が実現し、世の中の常識になっているなんて、予想もされていなかっただろう。月へ飛ぶロケットや、携帯電話もそれらのうちのひとつだ。

ジュール・ヴェルヌ。『海底二万里』や『八十日間世界一周』を著したこのフランス人作家が、いまこの世界に飛び込んできたら、何を思うだろう。驚きに言葉を失うだろうか。思った通りと胸を張るだろうか。答えなんてないけれど、もしかしたら、私たちが「ばかばかしい」と吹き出すことや、「それはムリだ」とあきらめていることも、彼なら黙って想像しはじめるかもしれない。渋滞のない高速道路や、ラッシュのない都心があったら。車イスでどこにでも行ける世界や、ゴミという言葉のない世界があったら。災害を恐れない街が実現したら。

次の100年で人間に何ができるのか、確信することは誰にもできない。たったひとりの命なら、はかなく尽きてしまう年月だろう。けれども人と人が、同じ思いを分かち合ったり受け継いだりしながら何かを成し遂げようとするとき、100年でできることは、今日の私たちの常識など、軽々と飛び越えてしまうのかもしれない。限界は、決めつけなくてもいい。想像しよう。そうすることで人間は、最初は笑われてしまうような夢ですら、本当に、現実のものにしてきたのだから。

100年をつくる会社

**鹿島**